

福岡県教育委員会では、児童生徒に国語、算数・数学における基礎基本を含む活用力(基礎的・基本的な知識・技能及び思考力、判断力、表現力等)を育むとともに、地域間の学力向上の取組の差を解消することを目的として、平成25年度から小学校5年生～中学校3年生向けの国語、算数・数学の教材集を作成・配布しました。各学校においては、教材集を授業等で繰り返し活用し、取組の改善が図られてきました。

また、平成28年度からは、学力向上に係る検証改善サイクルを小学校中学年から一層計画的に推進するために、小学校4年生向けの教材集を新たに作成してきました。

この度、学習指導要領(平成29年告示)の全面実施を受けて、教材集の改訂を行いました。

各学校では、授業の中だけでなく、朝の学習の時間や家庭学習等における補充・発展問題としても活用していただいているところですが、更に、各問題の特質に応じて、先生方の授業づくりや校内研修の際の参考資料としても活用され、基礎基本を含む活用力の向上に役立てていただくことをお願いします。

令和6年3月

福岡県教育委員会

小学校 国語 六

基礎基本を含む活用力を育成する教材集

追補版

令和六年三月改訂

目次

1	1 単位時間程度で活用する教材(大問)	
1	おたがいの立場や意図を考えながら話し合おう。 (話すこと・聞くこと)	47
2	活動を報告する文章の書き方を考えよう。 (書くこと)	49
3	登場人物の心情の変化をとらえよう。 (読むこと)	51
大問1～3の出題の趣旨・正答について 53～55		
2	短い時間で活用する教材(小問)	
1	自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫しながら話そう。 (話すこと・聞くこと)	56
2	自分の意見を筋道を立てて話そう。 (話すこと・聞くこと)	57
3	目的に合わせて、図表やグラフを用いて書こう。 (書くこと)	58
4	文章全体の構成の効果を考えて書こう。 (書くこと)	59
5	二つの文章を読んで、視点のちがいを読み取ろう。 (読むこと)	60
6	段落のまとまりの内容をとらえて、全体の要旨をまとめよう。 (読むこと)	61

第六学年「めあて」「おたがいの立場や意図を考えながら話し合おう。」

() (組) () (番) (名前) ()

中央小学校の六年生は、修学旅行で京都に行くことになりました。前田さんのクラスでは、自主研修の内容について話し合いました。次に示す【自主研修の条件】、【旅行会社の提案】、【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。(句読点等は字数に数えること。)

【自主研修の条件】

- ・京都らしい歴史にふれる体験をすること。
- ・友達との交流を深めるものであること。
- ・予算はおこづかい二千円のうち、千円以内におさめること。

【旅行会社の提案】

- ・京都タワーの見学 (三百五十円)
- ・お寺で座禅体験 (五百円)
- ・清水焼絵付け体験 (千五百円)

【話し合いの様子】

前田 (司会) 私たちは修学旅行で京都を訪れますが、二日目の、自主研修の三時間の間に行くことについて話し合いたいと思います。ただし【自主研修の条件】を守らなくてはいけません。まず【旅行会社の提案】を参考にしながら話し合っていきましょう。意見がある人はいますか。

内山 はい。ぼくは京都タワーに登ってみたいです。理由は、友達といっしょに高いところから風景をながめたり、写真をとったりしたいからです。

松下 それは楽しそうですね。ただ、①。だから、私は反対です。

前田 ほかに案がありますか。

宮本 私は座禅体験がしてみたいです。理由は、今まで座禅というものをしたことがないからよい体験になるし、お寺の歴史にふれることもできるからです。

前田 お寺の座禅体験という案に対して、何か意見はありますか。

田村 ぼくは反対です。座禅では「友達との交流を深める」のは難しいと思うからです。

(中略)

前田 なかなか決まりませんね。【旅行会社の提案】にないものでも、何かよい案があれば言ってみてください。

野中 私は、何かを作る体験がよいと思います。②、姉が「ハッ橋手作り体験」をして楽しかったと言っていたのを思い出しました。それがしてみたいです。

小林 すみません、「ハッ橋」とは何ですか。それは食べ物ですか。簡単に作れますか。

野中 はい、ハッ橋は京都の名物のおかしです。江戸時代からあるおかしですが、白玉粉やあんこでできていて、小学生でも作れます。

小林 それはいいですね。京都の歴史にふれられるし、友達といっしょにおかしを作ることで、交流も深められるのではないのでしょうか。

前田 何か反対意見のある人はいますか。

森川 ちょっと待ってください。ぼくらの学校の六年生は全部で百六十人います。自主研修の三時間で④

前田 野中さん、その点についてはどうでしょうか。

野中 そうですね、大丈夫かどうか問いか問い合わせてから決めてはどうでしょうか。

話し合いは続く

問1 松下さんは【自主研修の条件】に基づいた反対意見を言っています。

① に入る言葉を考えて書きましよう。

--

問2 野中さんは、②でどのような発言をしていると考えられますか。

適切なものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。

- ア 京都タワーに賛成ですが、
- イ 座禅体験がよいと思いますが、
- ウ 清水焼絵付け体験は予算のはいをこえるのでできませんが、
- エ 必ずしも【自主研修の条件】に従わなくてもいいと思いますが、

--

問3 司会の前田さんは、話し合いをスムーズに進めるために、どのような工夫をしていますか。次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。

- ア 初めに話し合いのテーマと方法を大まかに説明している。
- イ 意見を言うときは理由も言うようにうながしている。
- ウ 話し合いの流れからはずれた発言に注意をあたえている。
- エ だれからも意見が出ないときは適切な人を指名している。

--

問4 線③で小林さんが野中さんにした質問には、どのようなねらいがあると考えられますか。次のアからエまでの中から二つ選んで、その記号を書きましよう。

- ア わかりにくい言葉について、意味をたずねている。
- イ 案を出した理由は、どんなことが質問している。
- ウ 案の内容について、具体的な説明を求めている。
- エ 賛成できない案に対して、相手を傷つけないように反論している。

--	--

問5 森川さんは野中さんの案に対して、【自由行動の条件】以外の視点から問題点を提示しています。④ に入る言葉を、十字以上二十字以内で書きましよう。

--	--

《上手な司会の方法》

- 司会者は話し合いをスムーズに進めるために、重要な役割をになっっています。次のようなことに注意するといいでしよう。
- 初めに、どんなテーマについて、どのように話し合うのか示す。
- 発言を簡単にまとめたり、整理したりする。
- 話し合いが、テーマからそれていかないように注意する。

第六学年「めあて」活動を報告する文章の書き方を考えよう。

() (組) () (番) (名前) ()

2 中央町のボランティアクラブでは、五〜七月の活動を報告書にまとめました。次の【活動報告書(案)】と【資料】を読んで、あとの問いに答えましょう。(句読点等は字数に数えること。)

【活動報告書(案)】

『公園のごみ拾いボランティア』五〜七月の活動報告

中央町ボランティアクラブ

1 活動の日時と場所

今年の五〜七月、私たち中央町ボランティアクラブは、『公園のごみ拾いボランティア』の活動を行った。

○日時：五月、六月、七月の第二日曜日。午後三時〜四時。

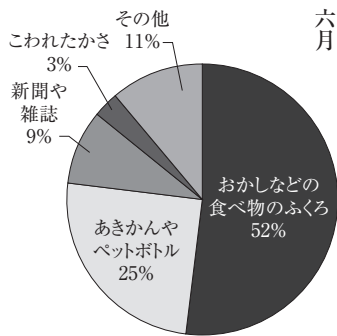
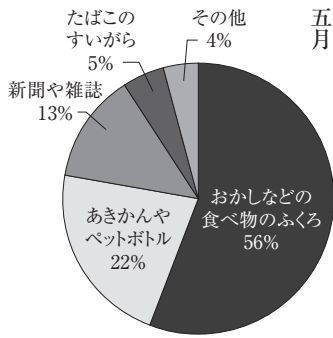
○場所：中央森林公園。

2

中央森林公園にはごみ箱が設置されておらず、ごみが捨てられたままになっていることが多いため。

3 活動で拾ったごみの種類

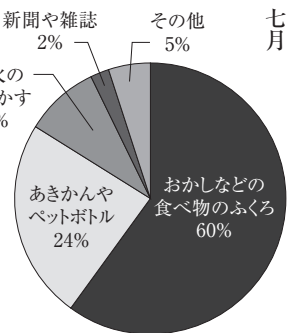
それぞれの月に拾ったごみで、多かったものは以下の通りである。



4 活動の反省と今後の目標

初めは、人が見ているので、ごみを拾うのが気はさかしく感じました。部員もいたが、しだいに慣れて堂々と拾えるようになった。また、ごみの分別も、しだいに手早くできるようになった。

これからは、ボランティアクラブ部員の感想からうかがえる反省点を生かして、



【資料】

ボランティアクラブ部員の感想

- ・ごみ拾いをするのですがすがすがしい気分になった。
- ・水分を多くふくむごみは拾いにくいことがあった。軍手や*トングを用意した方がいいと思った。
- ・七月は夏のせいか、花火の燃えかすが落ちていた。完全に火が消えていない可能性があり、危険なのでバケツに水をくんでくる必要があった。季節によってどんなごみがあるか予想して、持ち物を用意すればよかった。
- ・ごみ拾いをしていると、公園に来ている人に「ありがとう」と言ってもらえることがあり、うれしかった。

*トング：ものをはさんだり、つかんだりする道具

問1 ①には「小見出し」が入ります。ほかの小見出しを参考にしながら、適切な言葉を五字で書きましょう。

問2 「3 活動で拾ったごみの種類」の円グラフを見て、一番多いごみについて言えることを、「半数以上」という言葉を使って、二十字以上三十字以内で書きましょう。

30	20								

問3 【活動報告書(案)】の報告書の書き方には、どのような工夫がみられますか。あてはまらないものを次のアからエまでのなかから一つ選んで、その記号を書きましよう。

- ア 活動内容を、事がらごとに分けて報告している。
- イ 多かったごみを、月ごとに集計して報告している。
- ウ 公園に来ていた人の意見をふまえて、反省点を書いている。
- エ かじよう書きや円グラフを用いて、見やすくしている。

--

問4 ボランティアクラブ部長の川上さんは、二学期に向けて、どのようなことに注意しながらごみ拾いボランティアをしていくかという目標を、「4 活動の反省と今後の目標」の最後に書きました。②に入る言葉を書きましよう。ただし、次の〈条件〉に合わせて書きましよう。

〈条件〉

- ・【資料】の「ボランティアクラブ部員の感想」をふまえて書くこと。
- ・「……気持ちよくごみ拾いボランティアを行っていききたい。」という言葉に続くように、五十文字以上六十文字以内で書くこと。なお「気持ちよくごみ拾いボランティアを行っていききたい。」は字数にふくまない。

50									
60									

気持ちよくごみ拾いボランティアを行っていききたい。

《報告する文章を書くときの注意点》

- ・活動を報告する文章を書くときは、以下の点に注意すると、より読み手に伝わりやすい報告書になります。
- ・事実と、意見や感想を区別して書く。
- ・活動内容とそこから生まれた課題を整理し、構成を工夫して書く。
- ・必要に応じて、表やグラフを取り入れる。

第六学年「めあて」登場人物の心情の変化をとらえよう。

() (組) () (番号前) ()

3 町田さんの班では、次の文章を読んで登場人物の心情について、気になった部分にサイドラインを引いて話し合いました。あとの問いに答えましょう。(句読点等は字数に数えること。)

「①バイオリンなんか、もう弾かないんだ。ほつといてよ」

カイトは家をとびだした。自転車にのって思いきり走った。住宅地をぬけて畑のそばを走り、気がつくとも川ぞいの土手道をとばしていた。河川敷のひろいグラウンドがはるか下のほうに見える。ひとりりサッカーボールを追う人影を見つけて、カイトは長いスロープをおりていった。

グラウンドの周囲を自転車でも走らわった。サッカー少年はあいかわらずボールを追っている。カイトが反対側のはしにいったとき、サッカー少年は思いきりロングキックをした。ボールは大きな放物線をえがいてカイトのまえにころがってきた。

(②わざとやったのか?)

ブレーキをかけて自転車をとめる。

「カイトくん」

手をあげてよばれても、カイトは相手がだれだかわからなかった。

「ボール、おねがいしまーす」

スポーツクラブに所属する少年特有の礼儀正しさだ。カイトはしかたなく自転車をたおしてボールをけりかえすことにした。

深呼吸をしてボールに集中する。助走を三歩、そして、思いきってキックした。パンツとかわいた音がして目標からすこしそれとんでいった。少年がボールに追いつき、けりかえしてきた。カイトがまたかえす。少年がけり、カイトがけり、ボールをけるたびにふたりの距離は近づいた。さいごは両手でボールをすくいとり、がちりだきとめて少年はいった。

「カイトくんじゃろう?」

(だれだっけ?)

へんじができなかった。小学校入学まえからバイオリンをはじめたカイトは友だちができなかった。学校から帰るとレッスンの毎日、友だちとあそんだことがない。さそわれたこともなかった。

「ぼく、ヒロム。三年二組じゃった」

カイトが神戸にいくまえのクラスメイトだ。

「イダテンのヒロム?」

韋駄天ということばがクラスで流行したことがあった。だれがどこで見つけてき

たのかはわすれたが、足の速いひとのことだと知って、走るのがとくいだったヒロムのミドルネームになった。

「おぼえとってくれたんじや」

ヒロムはうれしそうにわらいかける。カイトはおもはゆかった。

(そんなによるこんでもらえるほど親しくなかったのに)

「夏休みじゃけえ、帰ってきたん?」

(そうか、もう夏休みなんだ)

カイトは学校を休んでいたのでわすれていた。

「サッカーやってるの?」

「うん。地元のクラブにはいっとる」

「ひとり?」

「クラブは土日じゃけえね。カイトくん、いっしょにやらん?」

「えっ」

カイトは胸がいたいくらい、きゅーんとなった。二秒くらいの沈黙があった。

「サッカー、きらい?」

「さそってもらったの、はじめてだから」

「いっつもレッスンにかよってたらう。さそったらいけんと思うとった」

ヒロムはそういうと、ボールをひざではずませて、ひくい*リフティングをはじめた。

(仲間はずれにされているのだと思っただ)

さそわれても、どうせあそぶことはできないのだからと、カイトはひとりしていることを楽しむようにしていたのだ。

「カイトくんは、ぼくらの希望の星じゃけえ」

「希望の星?」

「神戸へ転校するときに講堂でバイオリンを弾いたじゃろう、あれはわすれられん。きれいな音じゃった。世界的なバイオリニストになっても、また学校で弾いてくれたらええねいうて女子がいいよったよ」

(西村すぐり『ぼくがバイオリンを弾く理由』より)

*リフティング:手を使わずにボールを打ち上げ続けること。

大問1～3の出題の趣旨、正答

Ⅰ P 47・48

1 出題の趣旨

○ 話し合いでは、自分の意見を一方的に述べるのではなく、その理由を示すことや、他者の意見でわからない部分があったときは、率直に質問することが大切である。また、司会者は、話し合いの進行をスムーズにするために注意しなければならないことがあることも理解させたい。

2 正答について

問1

○ 正答

(例)「京都らしい歴史にふれる体験」という条件に合わないと思います。

○ 解説

反対意見の根拠となるものは何かをとらえる設問である。【自主研修の条件】のうち、内山さんの意見が満たしていないものを探し、それに基づいて反対意見を記述する。話し合いの内容だけでなく、同時に提示されている別の条件と関連付けて考えさせたい。

(第5学年及び第6学年 話すこと・聞くこと ア)

問2

○ 正答

ウ

○ 解説

前後の話し合いの流れから、発言の内容を考える設問である。司会の前田さんが、【旅行会社の提案】以外の案をうながしていること、「八ッ橋手作り体験」を思い出させるような内容であることをおさえさせたい。

(第5学年及び第6学年 話すこと・聞くこと オ)

問3

○ 正答

ア

○ 解説

司会の方法について考える設問である。司会の前田さんは、話し合いの初めに「自主研修の三時間の間に行うこと」というテーマと、どのような方法で話し合うかについて大まかに説明している。

(第5学年及び第6学年 話すこと・聞くこと オ)

問4

○ 正答

ア・ウ (順不同)

○ 解説

質問の意図をとらえる設問である。野中さんは「八ッ橋手作り体験」の「八ッ橋」とは何か、その他の具体的なことを説明していない。話し合いでは、自分の言いたいことを、聞き手にわかるように発言することが大切である。

(第5学年及び第6学年 話すこと・聞くこと エ)

問5

○ 正答

(例)作り終えることはできるのでしょいか。(十八字)

○ 解説

話し合いの流れに沿って新しい問題点を探り、条件に従って記述する設問である。空欄の直前に「百六十人います」とあること、話し合いの冒頭に「自主研修の三時間」とあることから、時間的な制約の中で全員の活動が終了できるかが不明であることに気づかせたい。

(第5学年及び第6学年 話すこと・聞くこと イ)

1 出題の趣旨

○ 調査の結果などをふまえて、活動を報告する文章の書き方を確認する問題である。ここでは、ボランティア活動について、三か月間の活動を報告する場面を設定した。小見出しによる構成の仕方を考えたり、グラフから事実を読み取ったり、列挙された反省点をまとめて文章にしたりする力をつけさせたい。

2 正答について

問1

○ 正答

(例) 活動の理由

○ 解説

内容に合った適切な小見出しを考える設問である。「2」が「……ごみ捨てられたままになっていくことが多い」と、ごみ拾いボランティアを始めた「理由」を述べたものになっていることをおさえさせたい。(第5学年及び第6学年 書くこと ア)

問2

○ 正答

(例) おかしなどの食べ物のふくろが半数以上をしめている。(二十五字)

○ 解説

グラフから事実を読み取り、記述する設問である。一番多いごみは、毎月「おかしなどの食べ物のふくろ」であったこと、それが常に半数以上をしめていたことを読み取らせたい。

(第5学年及び第6学年 書くこと エ)

問3

○ 正答

ウ

○ 解説

活動報告書の書き方の工夫を確認する設問である。活動内容を、小見出しによって事ごとに分けている、多かったごみの種類を月ごとに集計している、箇条書きや円グラフを用いて見やすくするなどの工夫によって、読み手に伝わりやすくしていることをおさえさせたい。

(第5学年及び第6学年 書くこと イ・エ)

問4

○ 正答

(例) きたないごみでも拾えるよう軍手やトンクを用意したり、季節によって落ちていくごみを予想して持ち物を用意したりして、(気持ちよくごみ拾いボランティアを行っていききたい。)(五十六字)

○ 解説

調査の結果や、反省点をふまえて考えたことをまとめて記述する設問である。【資料】の「ボランティアクラブ部員の感想」の中から、「反省点」といえるもの二つを選び出し、字数制限以内でまとめて書く。「気持ちよくごみ拾いボランティアを行っていききたい」という言葉に続くように、末尾の書き方に注意させたい。

(第5学年及び第6学年 書くこと ウ)

1 出題の趣旨

○ 登場人物の行動や言葉、人物同士の関係に注意しながら読み、人物の心情について読み取っていく問題である。ここでは、最初の場面と最後の場面、主人公の心情が変化している物語を提示した。どのような行動からどのような心情が読み取れるか、またどのように変化していくかに注意して読ませたい。

2 正答について

問1

○ 正答

住宅地をぬ

○ 解説

家を飛び出したカイトは、「気がつく」と川ぞいの土手道をとぼしていた」とある。周りが見えず、無意識に土手道まで自転車をとぼしていたことに気づかせたい。
(第5学年及び第6学年 読むこと イ)

問2

○ 正答

(例) 話しかける (五字)

○ 解説

「山道さん」は、カイトがヒロムを見つけたあと、わざわざグラウンドの周囲を走りまわったことに注目している。カイト自身がヒロムに話しかけるきっかけを探していたので、ヒロムがカイトの前にボールがころがるようにキックしたとき、「同じようにカイトに話しかけるきっかけを作ったのではないか」と読み取ったのである。直後の場面で、ヒロムがカイトがだれだか気づいていて、名前を呼びかけていることもおさえさせたい。

(第5学年及び第6学年 読むこと イ)

問3

○ 正答

(例) 二人の気持ちが少しずつ近づいていく

○ 解説

再会した二人の少年がサッカーボールをけりあう場面である。「ボールをけるたびにふたりの距離は近づいた」とあるように、ボールのやり取りを通して、二人の気持ちも近づいていったことが象徴的に表現されていることをおさえさせたい。
(第5学年及び第6学年 読むこと エ)

問4

○ 正答

(例) サッカーにはじめてきそってもらった喜び (十九字)

○ 解説

人物の行動や言葉から心情を読み取る設問である。「きそってもらったの、はじめてだから」という言葉から、大きな喜びを感じていたことを読み取らせたい。
(第5学年及び第6学年 読むこと エ)

問5

○ 正答

(例) 最初の場面では、バイオリンをやめたいというあらあらしい気持ちになっていったのが、最後の場面では、バイオリンによってみんなに評価されていくことを知りうれしい気持ちに変化している。(八十六字)

○ 解説

登場人物の気持ちの変化を読み取る設問である。「東さん」が「同じものが出てきている」と言っているのは「バイオリン」のことである。最初の場面ではバイオリンがあらあらしい気持ちのきっかけに、最後の場面ではうれしい気持ちのきっかけになっていることをおさえさせ、その心情の変化を読み取らせたい。
(第5学年及び第6学年 読むこと エ・オ)

第八学年「めあて」自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫しながら話そう。

() () 組 () () 番 名前 ()

① 竹中さんのクラスでは、「感謝を伝えること」というテーマで、スピーチをするようになりました。竹中さんは、「母に伝える感謝」という題名でスピーチ原稿を考えています。竹中さんが作った「スピーチ原稿」を読んで、あとの問いに答えましょう。(句読点等は字数に数えること。)

【スピーチ原稿】

〈母に伝える感謝〉

ぼくの家では、母が食事のしたくやそうじなどをしてしています。

ぼくは、食事のしたくやそうじがそれほど大変なことだと思っていなかった。母に毎日感謝を伝えることは、ありませんでした。〈ア〉

でも最近、毎日ごはんを作ることや部屋をきれいに保つことが、どんなに大変か強く感じるようになりました。この夏母が入院して、ぼくが食事のしたくやそうじを、父がせんたくをしたのです。〈イ〉

自分で体験してみると、「これを毎日続けるなんて、すごいことだ。」と思いました。それに、「今日のごはんおいしかったよ。」と言われると、とてもうれしくなることにも気づきました。〈ウ〉

それ以来、特別な日だけでなく、ことが大切だと思うようになってきました。「お母さん、いつもありがとう。今日もごはんおいしかったよ。」と。

問1 竹中さんは、線部を聞いている人にわかりやすいように書き直すことにしました。線部を二文にわけて書きましよう。

--

問2 スピーチ原稿を読んだ小川さんは竹中さんに助言をしました。次の原稿は、小川さんの助言を聞いて竹中さんが書き足した部分です。

ぼくは、夕食を作るのに、野菜の皮をむいたりじゃがいもの芽を取ったりすることが、こんなに手間のかかることだとは思いませんでした。それにそうじも、部屋中にはたきをかけたりそうじ機をかけたたりするのは、思ったより大変でした。

(1) 小川さんがした助言として適切なものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。

- ア 何日ぐらい家事をしたのか書いたほうがいい。
- イ 食事のしたくやそうじの大変なところを書いたほうがいい。
- ウ 竹中さんがどんな料理を作ったのか書いたほうがいい。
- エ 何時間ぐらいそうじをしたのか書いたほうがいい。

(2) 新しい原稿は〈ア〉から〈ウ〉のどこに書き足すのが適切ですか。一つ選んで、その記号を書きましよう。

問3 「スピーチ原稿」のには、竹中さんの意見が入ります。

に入る言葉を「スピーチ原稿」から十字でぬき出ましよう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第六学年「めあて」自分の意見を筋道を立てて話そう。

2 中央小学校の図書委員会では、図書室の本が返却期限の二週間以内に返って来ない場合があるため、全校集会で発表することにしました。次の、返却が
おくれた人に話を聞いて作った【資料】と【発表原稿】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料】

返却がおくれた人
(学年別)

⑥

- ・一年…二十人
- ・二年…十三人
- ・三年…十人
- ・四年…七人
- ・五年…六人
- ・六年…三人

①

おくれた人が借りていた冊数

- ・三冊以上…三十一人
- ・二冊…二十人
- ・一冊…八人

②

おくれた理由(多かったもの)

- ・借りた本をすべて読み終わることができなかった。
- ・特にお知らせが来ないので、返却期限が来たのを忘れてしまった。

【発表原稿】

図書返却のお願い

——中央小学校図書委員会——

一学期の間に、図書室の本の返却がおくれた人は全校で五十九人いました。一番人数が少なかった学年は①です。

司書の高田先生に②聞いたところ、「学年が上の人は、下の人にくらべて本の貸し借りに慣れているので、おくれないのでしよう。」と③申しあげました。どの学年の人もできるだけ気をつけてください。

今後は、借りた図書を返却期限の二週間以内に返しやすくなるよう、一度に貸し出す④ことや、図書委員が直接⑤ことを考えています。みんなでルールを守って、楽しく本を読みましよう。

() () 組 () () 番 名前 ()

問1 【資料】の⑥を参考に、【発表原稿】の①に入る言葉を、ぬき出しましょう。

□

問2 大石さんは、——線②・③の部分正しい敬語に直そうと思いましたが、それぞれの正しい敬語を次のアからカまでの中から一つずつ選んで、記号で答えましょう。

- ア 聞かれた
- イ 言っていました
- ウ お聞きになった
- エ おっしゃっていました
- オ うかがった
- カ 申し上げていました

② □

③ □

問3 図書委員会では、本の返却をうながすための案を二つ考えました。【資料】の①・②を参考に、【発表原稿】の④・⑤に入る言葉を考えて書きましよう。

④ □

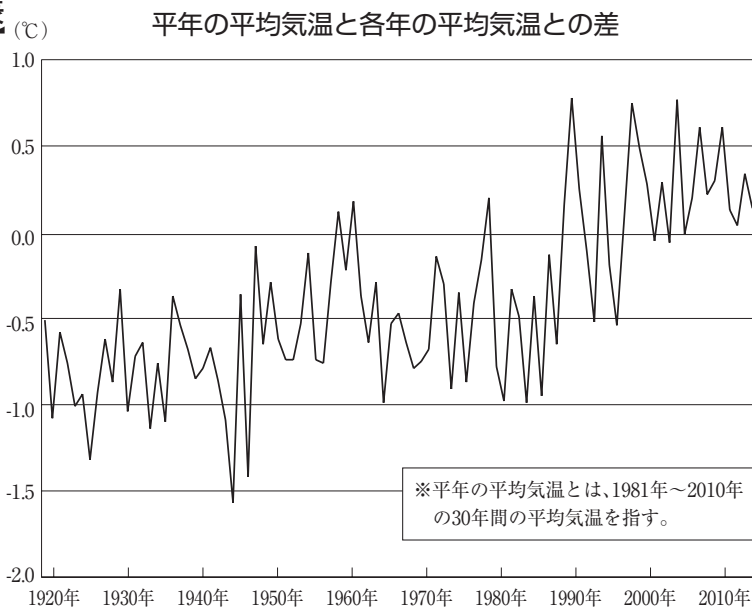
⑤ □

第六学年「めあて」目的に合わせて、図表やグラフを用いて書こう。

() (組) () (番 名前) ()

3 泉さんは、次の「グラフ」、「表」、「資料」を参考にして「意見文」を書きました。これを読んであとの問いに答えましょう。(句読点等は字数に数えること。)

【グラフ】(気象庁)



【表】(総務省統計局)

年	発電量 (100万キロワット時)
1920	3,815
1930	15,773
1940	34,566
1950	46,266
1960	115,497
1970	359,539
1980	577,521
1990	857,272
2000	1,091,500
2010	1,156,880

※「100万キロワット時」は、100ワットの電球1千万個を1時間点灯できる電力量

【資料】

- 大雨などの異常気象。
- 北極やグリーンランドの氷の減少。
- 環境の変化による生き物の絶滅。
- 温暖化対策の例
- テレビを見ていないときは消す。
- 冷房や暖房の温度設定に気を付ける。
- 日ごろ使わない電化製品のコンセントをぬいておく。

【意見文】

地球温暖化は、二酸化炭素の量の増加が原因であり、年々深刻な問題になっている。それは、日本の平均気温と各年の平均気温との差を見ると、高くなったり低くなったりしているものの、一九二〇年と比べて二〇一〇年の方が高くなっていることからわかる。

地球温暖化が進むと、大雨などの異常気象や、北極やグリーンランドの氷の減少、生き物の絶滅が起こるかもしれない。

地球温暖化を少しでも食い止めるために、テレビを見ていない時は消す、冷房や暖房の温度設定に気を付けるなど、一人一人が身の回りのできる対策を実行することが大切である。

問1 【表】から発電量の変化を読み取り、どのように変化しているか書きましょう。

問2 【資料】の□に入る言葉を次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 温暖化とは何か
- イ 温暖化を引き起こす要因
- ウ 温暖化による影響
- エ 温暖化と私たちの生活

問3 泉さんが、——線部のような対策を挙げたのは、地球温暖化を食い止めるために、どのようなことが必要だと考えたからですか。次の空欄に入る言葉を十字以上二十字以内で書きましょう。地球温暖化を食い止めるために、

20	10

が必要だと考えたから。

第六学年「めあて」文章全体の構成の効果を考えて書こう。

() (組) () (番 名前) ()

4 土田さんはおばあさんのいなかの「筆供養」という祭りに行き【作文】を書きました。これを読んであとの問いに答えましょう。

筆供養に参加して

土田 美花

① 私は、先週、祖母のいなか泊まりに行き、「筆供養」に参加しました。「筆供養」は使わなくなった□を神社に持って行き、祈りとお礼の花をささげてから火にくべて*お焚き上げするお祭りです。筆供養の日にちは、八月十日です。

② 神社に行ってみると、小学生用の筆から古い竹の筆、それに年賀状用の筆ペンなど、さまざまな筆記用具が*祭壇に積み上げられています。もううす暗いからなのか、祭壇の近くには、明かり用のちゅうちんがさげられていました。思ったよりたくさんの方が来ていて、*境内にはラムネの屋台まで出ていました。みんなそれぞれに祭壇に筆記用具と花を供えて、手を合わせていました。使わなくなったものを単に捨てるのではなく、こうしてお祈りをしてから供養するお祭りは、ずっと続いてほしいと思いました。

③ 神社のおばあさんに話を聞くと、「『筆供養』は、昔、ある商家の子どもが、古くなった筆を捨ててしまったとき、『つくも神』という妖怪になって毎晩化けて出たので、商家のあるじがこの神社にたのんでおはらいしてもらったところ、しずまったそうです。それ以来、筆供養をするようになったんですよ。」ということでした。

④ 私も毛のぬけてしまった筆を花といっしょに祭壇に供え、お焚き上げを見て、どことなくすがすがしい気分が帰りました。

*お焚き上げ：古くなった物などを、神社や寺で焼いて清めること。
*祭壇：祭りを行うために設置された壇。 *境内：神社や寺のしきちの中。

問1 【作文】の中の□に入る言葉を、【作文】の中から探し、四字でぬき出しましょう。

□

問2 この【作文】の第①～④段落には、どのような小見出しがつけられますか。次のA～Cに入る言葉を下のAからEまでのの中から一つずつ選んで、その記号を書きましょう。

各段落の小見出し

④	③	②	①
私のご感想	C	B	A

- ア 祭りの様子
- イ 「筆供養」とは何か
- ウ 祭りの由来
- エ 「筆」の種類

A □

B □

C □

問3 土田さんの【作文】を読んだ先生は「自分の考えは、まとめの段落の最後に書いた方がいいですよ。」と助言しました。一番最後に書いたほうがよい一文を【作文】の中から探し、初めの五字をぬき出しましょう。

□

第六学年「めあて」二つの文章を読んで、視点のちがいを読み取ろう。

() () 組 () () 番 名前 ()

5 中央小学校で開かれた球技大会について、六年一組と二組がそれぞれ【学級新聞の記事(案)】を書きました。これを読んであとの問いに答えましょう。(句読点等は字数に数えること。)

ソフトボール

白熱の決勝戦!

十月三日は、中央小学校球技大会の日でした。

六年生は、ソフトボールが参加種目です。小学校生活最後の球技大会になるので、どのクラスも、これまでになく気合いが入っています。中でも一組と二組の試合は白熱し、選手たちの決勝戦らしいかつやくが

見られました。

二組は、試合開始からすぐに一点を取り、試合後半でもホームランなどで四点を追加し、優勝をはたしました。

観戦していた先生は「一組のプレーも良かったけれど、二組が毎日練習していた。その努力が実ったんだろう。」と祝福していました。

【学級新聞の記事(案)】

見ましたか?

ソフトボールの名試合

去る十月三日、毎年こうれいの中

央小学校球技大会が行われました。六年生の参加種目はソフトボール

で、一組と二組が決勝に残りました。一組の選手は、初回からヒットを

連続するかつやくを見せながらも、点に結びつけられませんでした。試合後半からペースをつかみ確実に三

点を取りましたが、五点を取った二組に追いつけませんでした。

一組のリーダーは、「ヒットの数は一組の方が多かった。でも、二組の勝とうという熱意に負けていた。名試合だった。」とのことでした。

全力をつくした両チームに、会場から温かい拍手が送られました。

問1 二つの【学級新聞の記事(案)】に共通して書かれている内容はどんなことですか。次のA、Bに入る言葉をぬき出しましょう。

●十月三日にAが行われたこと。

●六年生の参加種目はBであったこと。

A B

問2 二つの【学級新聞の記事(案)】に共通している表現上の工夫として適切なものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。

ア 体言止めを使って、リズムよく読めるようにしている。

イ 難しい言葉には説明を付けて、読者にわかりやすくしている。

ウ タイトルに呼びかけの言葉を使って、読者の興味をひいている。

エ 試合を見ていた人の言葉を引用して、内容を、くくらせている。

問3 二つの【学級新聞の記事(案)】が、新聞を印刷する前に混じってしま

まい、新聞委員の林さんは、どちらの案が一組のものかについて考えました。次の文のCに入る言葉を①・②の中から記号で選んで、Dに入る理由を「かつやく」という言葉を使って二十字以内で書きましよう。

「一組の書いた【学級新聞の記事(案)】はCだと思ふ。なぜなら記事に、Dからです。」

D									

第六学年【め】【め】段落のまとまりの内容をとりよせて、全体の要旨をまとめてよめよめ。

() (組) () (番 名前) ()

- 6 六年三組では、次の文章を読んで班ごとに要旨をまとめて発表することになりました。あとの問いに答えましょう。(句読点等は字数に数えること。)
- 1 日本の方言の分布のしかたは、ことばによってさまざまです。その中で、もっとも目だつのは、東日本と西日本とで、大きくわかれるものです。
 - 2 あなたの地方では、「しおからい」を、どのようにいいますか？ このようにきかれて、シヨツパイと答えたなら、その人は、きっと東日本の人、カライと答えたなら、西日本の人でしょう。
 - 3 シヨツパイとカライは、ふたつにわかれて、日本の大部分に広がっています。
 - 4 おもしろいことに、静岡県の伊豆地方では、「しおからい」を、シヨツパライといっています。このシヨツパライは、そのまわりにあるシヨツパイとカライが、まじりあつてできたものと考えられます。
 - 5 ことばが、東と西で大きくことなる例は、ほかにたくさんあります。たとえば、「あそこに人がいる」というときの「いる」を、どのようにいうでしょうか？ 東日本では、イルといい、西日本では、オルといいます。
 - 6 西日本でも、和歌山県や三重県には、「いる」を、アルというところがあります。このように、人も物も「ある」というのは、むかしの文献によくみられるいい方で、日本語の古いすがたをのこすものです。
 - 7 シヨツパイとカライの境界は、新潟県の西の端にある糸魚川市と、静岡県の西の端にある浜名湖をむすぶ線上にあります。イルとオルの境界も、だいたい同じです。
 - 8 この線は、「糸魚川・浜名湖線」とよばれ、日本の方言を東西にわけ、大きな境界線となっています。つまり、本州の中ほどで、新潟県、長野県、静岡県よりも東の地方と、富山県、岐阜県、愛知県よりも西の地方が、大きくわかれることになります。
 - 9 糸魚川の西には、難所として知られる「*親不知」があります。また、長野県と岐阜県の境には、日本アルプスの山々が横たわり、静岡県の西部には天竜川や大井川などの大きな川が流れています。これらの自然のかが、人々の行き来をさまたげ、ことばを、東西にわけ大きな原因となったのです。
- (佐藤亮一『日本の方言大研究6 なるほど方言学入門』より)
- *親不知：新潟県南西部にある、がけの切り立った海岸。

問1 黒木さんは①～⑨の段落を意味のまとまりごとにかけて、表にしました。A～Dに入る言葉を、マス目に合うようにぬき出しましょう。

東西の境界線	日本の方言の分布の仕方		
⑦～⑨	⑤～⑥	②～④	①
<p>・海岸や、山々、大きな川など、さまざまながことばを東西にわけ原因となった。</p>	<p>具体例2 「あそこに人がいる」…東日本「イル」・西日本「オル」 (※西日本で「アル」という地方がある。↑日本語の古いすがた)</p>	<p>具体例1 「しおからい」…東日本「シヨツパイ」・西日本「B」 (※静岡県には「シヨツパライ」という地方がある。)</p>	<p>A 日本の方言の分布のしかたで、もっとも目立つのは でわかれるもの。</p>

問2 原さんは、黒木さんの表を参考にしながら、具体例を省いて全体の要旨をまとめました。左の書き出しの言葉に続けて、書きましょう。

日本の方言は大きく、東日本と西日本にわかれる。
ことばの境界線は、

小問1～6の正答

【話すこと・聞くこと】

1 正答 P 56

問1 (例) ぼくは、食事のしたくやそうじがそれほど大変なことだと思っ
ていませんでした。だから、母に毎日感謝を伝えることは、
ありませんでした。

問2 (1) イ

(2) イ

問3 母に毎日感謝を伝える(十字)

2 正答 P 57

問1 六年

問2 ②オ ③エ

問3 ④(例) 本の冊数を制限する

⑤(例) 返却期限が近づいたことを知らせる

【書くこと】

3 正答 P 58

問1 (例) しだいに増えている。

問2 ウ

問3 (例) 使う電力をできるだけ少なくすること(十七字)

4 正答 P 59

問1 筆記用具

問2 A イ B ア C ウ

問3 使わなくな

【読むこと】

5 正答 P 60

問1 A (中央小学校) 球技大会 B ソフトボール

問2 エ

問3 C ①

D (例) 一組の選手のかつやくを中心に書いている(十九字)

6 正答 P 61

問1 A 東日本と西日本

B カライ

C 糸魚川・浜名湖線

D 自然のかべ

問2 (例) (ことばの境界線は、) 本州の中ほどの「糸魚川・浜名湖線」

上にあり、さまざまな自然のかべが、ことばを東西にわけ原因となつたのである。